



とにかくよく咲くアガスタチ

アガスタチとは

触れると爽やかな香り、風に揺れる花穂。素朴で可憐な花が魅力的な植物です。冬は地上部が枯れる宿根性の多年草。従来のアガスタチと異なり、コンパクト、花付きが良い品種です。植物全体を覆うほどたくさんの花が咲くので、庭を明るく彩ってくれます。開花期間が長く、春から秋遅くまで咲いてくれます。

用途

鉢植え、地植え（庭植え、花壇）、寄せ植え、切り花にも

植え付け・用土

花や蕾は切り取らないで、そのまま植え付けて大丈夫です。
花が咲きながら分枝して、株が広がります。
早く分枝を多くしたい場合には、咲いている花茎の下で切ってもいいでしょう。



✓ 地植えの場合

→ 株間 40~50cm

地植えは、日当たりと水はけのよい場所へ植えましょう。
水はけが悪いと蒸れて傷みにつながります。
緩効性肥料を入れて、耕してから植えれば、その後夏の追肥は必要ありません。

✓ 単品鉢植えの場合

→ 7~8号鉢がおすすめ

鉢植えは、排水の良い用土に緩効性肥料を元肥として入れて植え付けてください。
夏越しのためには、鉢植えもオススメです。

✓ 寄せ植えの場合

→ 大きめの鉢に苗の回りは広く取る

アガスタチは株が大きく広がります。
寄せ植えにする場合には、大きめの鉢を使用し、苗の回りは広く取って植えましょう。

☀️ 置き場所：日当たりと風通しの良い場所に

鉢植えは、日当たりと風通しの良い場所へ置きましょう。日当たりと水はけの良い環境を整え、乾燥気味に管理することで元気に育ち、花がたくさん咲きます。

耐寒性：強い

冬は地上部が枯れる宿根草ですが、冬至芽で越冬します。マイナス 10℃位は問題ありません。花が咲き終わったら、初冬に軽く切り戻しをしておくといいますが、そのまま保温も兼ねて春までそのままでも大丈夫です。

鉢植えは、寒い地域では霜の当たらない場所へ置いた方がいいでしょう。地上部が枯れても根は生きています。用土全体が凍ったりすると傷みになりダメになる場合もあります。

耐暑性：強い

暑さには強いですが多湿を嫌いますので、長雨や強い雨には要注意。長く強い雨が降る場合、鉢植えは雨を避けた場所に移動すると、株の傷みが少なくて済みます。



ピンクパール



ピーチパール

💧 水やり：乾いてからタップリと

鉢植えは、表面の用土が乾いてから、タップリと水やりをしましょう。乾燥には強い植物です。

地植えは、活着するまでは乾いたら水やりをした方がいいです。その後は水やりの必要はありませんが、全く雨が降らず乾き過ぎた場合には、水やりをしましょう。

冬、地上部が枯れても根は生きています。完全に乾いてしまうと枯れてしまいますので、表面の用土が乾いたら軽めに水やりをしましょう。

✂️ お手入れ

咲き終わった花茎は、切り取っておくと、次の花が咲きやすくなります。

特に**暑くなる夏**は、咲き終わった花茎と咲き終わりに近い花茎を低い位置で切り取っておくと、キレイな状態で夏越しができます。

8月下旬から9月上旬、20cm 位の高さで切り戻しをするとキレイな状態で花が咲き、秋遅くまで咲いてくれます。

初冬に花が終わり葉が枯れてきたら、半分くらいの高さで切り戻しをしましょう。保温も兼ねて、切り戻しをせずそのまま冬越ししても大丈夫です。冬は株元にロゼット状の冬至芽で冬越しします。

早春に、株元の芽を残して、枯れた茎や葉を丁寧に切り取りましょう。新芽が育ち、花穂が見えてきたら追肥をすると、2年目の花が見事に咲いてくれます。

🌸 開花期：初夏～秋（関東基準）

初夏から夏、秋まで長い期間咲き続けますが、晩夏に切り戻しを行うと、綺麗な状態で秋遅くまで咲いてくれます。

🌿 草丈、株張り

花が咲く前の草丈は 20～30cm ですが、花が咲くと 40～50cm 位の高さになります。

分枝もよく、株張りも 40～50cm 位まで広がります。

🌱 肥料

鉢植えは、元肥を入れて植え付け、1ヶ月を過ぎたら開花中は月一回程度の追肥を少々与えましょう。多過ぎると徒長になります。なお、夏の追肥は(7月～9月上旬)はしない方がいいでしょう。9月中旬からは追肥を開始し、月一回の肥料で秋遅くまで咲き続けます。

地植えは、最初に元肥を入れて植え付ければ、その後は基本要りませんが、9月下旬に株元に置肥をするとよいでしょう。